

別記様式

議 事 録

会議の名称	第6回 岩倉市公立保育園適正配置方針に係る懇話会
開催日時	平成30年8月2日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	岩倉市役所 7階 大会議室
出席者 (欠席者)	小松尚委員長、鎌倉博副委員長、町田竜介委員、廣中大雄委員、岸野奈津美委員、社本真夕美委員、村瀬葉子委員、中島光恵委員 (中島正資委員)、(今井希恵委員)、(寺澤あや委員)、(渡邊亜希委員) 説明者：副市長、教育こども未来部長、子育て支援課長、児童グループ長及び係 オブザーバー：都市整備課長、営繕グループ長及び係 コンサルタント：地域問題研究所
会議の議題	(1) 前回から今回までの計画の報告について ●保育園父母の会連絡会への適正配置方針の説明及び公立保育園の保護者からのご意見シートの収集について (2) 適正配置方針の考え方(案)について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	資料1-1「岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)」についてのご意見シートまとめ(保育園父母の会連絡会 7月14日開催) 資料1-2「岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)」についてのご意見シートまとめ(公立保育園保護者 7月20日～25日実施) 資料2 岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	12人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1. 開会	
事務局	・第6回岩倉市公立保育園適正配置に係る懇話会を開催させていただきます。

<p>委員長</p>	<p>・今回6回目の懇話会になりますが、今日が最終回という予定でありますので、ご意見をいただき、良い形での方針がまとめられればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>2. 議題 (1) 前回から今回までの経過の報告について 事務局より、資料1-1、資料1-2「『岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)』についてのご意見シートまとめ」に基づき、保育園父母の会連絡会への適正配置方針の説明及び公立保育園の保護者からのご意見シートの収集について説明</p>	
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを配付していただきありがとうございます。意見をきいていただく機会をつくっていただけるのは、ありがたいと思います。 ・適正配置方針の簡略版を配付していただいたとお聞きしておりますが、そこにはアンケートの自由回答にもありますようにメリットしか書いてなかったということが気になりました。保護者の方から、デメリットが書いてないことで判断材料が少なかったとの声を聞いています。 ・この統廃合案に関しての署名活動を行いました。8月2日に決定することに反対する署名が4,395名で、さらに増えている状況です。内訳としては、在園児の保護者、卒園児の保護者、保育士、幼稚園児の保護者で、特にOBの方がこの問題に関心を寄せていただいています。この2週間で4,400を超える数が集まるということは、関心が高いと感じました。在園者の方にアンケートをとっていただきましたが、このアンケートだけで市民の声を全て聞いたとは思わないでいただきたいと思います。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回から第6回の間にはできることということで、させていただきましたが、これで全てということではなく、関係する方々との話合いの中で、ご説明していきたいと思っております。現在、子育てされていらっしゃる方、終わられた方、これからの方と皆様のご意見をうかがいたいと思っております。
<p>議題(2) 適正配置方針の考え方(案)について 事務局より、資料2「岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)」に基づき、公立保育園適正配置方針の考え方(案)について説明</p>	
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に内容は大きくは変わっていませんが、初めて見る方にもわかるように順番等は若干変えてあります。また私からお願いしたのですが、この方針は短期間で実施されると誤解される可能性もあると思われましたので、どのくらいの期間で実施されるのかということをはっきり分かるようにしてほしいと申し上げました。第2期では2036年ですので、約20年掛けて実施されることとなります。今

	<p>の子どもたちが大人になった時のことを見据えた計画であることもきちんと位置付けておきたいので、(資料2：1、8ページ) 期間として、第1期、第2期があり、7章ではその順番に並べ替えたりしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の懇話会は最後ということでもありますので、この方針案が妥当かどうかということも含め、ご意見をいただきたいと思ます。
事務局	<p>(本日欠席の委員のご意見について紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇委員は、「適正配置方針については、概ね妥当だと思っている。」とのご意見をいただいています。 ・〇〇委員は、「適正配置方針については、概ね妥当だと思っている。ただし、それは私自身が懇話会の委員として、ここまでの経過を知っているからであり、市民からは北部保育園がなくなるのは淋しいといった声もきいている。」とのご意見でした。 ・〇〇委員は、「今まで懇話会で教えていただいたことを踏まえ、合意形成をした上で、岩倉市の財政の体力に沿った適正配置が円滑に進められることを願っており、認定こども園として地域の方にお認めいただけるようにこれまで以上に努力します。」というご意見を頂戴しました。 ・〇〇委員は、「適正配置方針について、概ね妥当だと思っている。岩倉の公立ならではの良さ、安心感、安定感などが継承されていくのであれば、統廃合した結果、各園の園児数が増えたとしても新しく綺麗な園舎で保育を進めていくべきだと考えています。」とのご意見を頂戴しています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、妥当ではないという意見です。 ・(資料2：4ページ) サービス必要量の見通しと現状の格差の部分で、これは10年後ということを出していただいています。何年かごとに見込みと必要量を柔軟に考える必要があると思います。特に来年10月の保育料の無償化について、3歳以上の無償化は決定しているので影響はないとのことでしたが、主食代、副食代を徴収する自治体が出てくるということをお聞きしています。来年10月になってみないと分からない点もありますので、見込みについても見直しをしていただきたいと思ます。 ・(資料2：7ページ) 適正配置・適正規模の方針について、70人程度から130人程度ということですが、一番大きな保育園である中部保育園は、園児数90人で満足度は80パーセントとなっています。これを最大130人まで引き上げるのは疑問が残ります。特に気にな

	<p>ったのは、参考1の適正規模の考え方の根拠の部分で、5歳児は70人程度で1人の保育士に対し15人、130人程度では1人の保育士に対し30人となっており、あまりに格差があると感じます。これだけ人数に差があると保育の質に関わってくるのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り保育に関して、この案で行われるのかどうかをお聞きしたいです。 ・今の園舎は古いので、第1期、第2期を待たずに何らかの補修、長寿命化の工事をしていただきたいと思います。 <p>(資料2：6ページ)「公立園と私立園に対する意識差の垣根を取り払う」の部分で、意識差については格差ではなく、それぞれの考え方が違うということでそのままよいと思います。公私連携型保育所を見据えた統廃合案なのだと思いますが、統合保育園は公立のままやっていくべきだと思います。支援児に関しても、公立保育園は長年培ってきたものがあり、全国的にも保育の岩倉と言われるくらい保育の質が高く、岩倉の保育士さんは全国の保育士さんと学び合ってきた歴史があり、それが岩倉に還元されてきました。縦割り保育が全園に導入されると聞きましたが、統合保育園ではこの縦割り保育が行われるかどうか分からないということなので、縦割り保育ができない統合保育園には賛成できません。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2：4ページ)見込み数について、将来人口と低年齢の要望が増えること等を勘案しての見込みですが、これがこのまま動かないとは考えていません。 ・統合保育園について、具体化していく際、関係者との対話をしながら進めていき、それは、ハードについてもソフトについても同様と考えておりますので、これまでの公立保育園の役割を適正規模方針の保育運営上の観点として、公立保育園が堅持する役割である特別な支援を要する子どもへの支援、子育て困窮家族への支援、公的機関との連携などは引き続き維持すると考えております。 ・第1期、第2期の統合までの期間、適切な修繕は施していきます。今年度もトイレなどはやっております。統合が決まったからといって、手を掛けないということは決してありません。 ・適正規模の考え方について、70人規模の3歳以上が45人であれば、縦割り2クラスになるかもしれません。3歳、4歳、5歳については最大数でみており、30人で推移すれば1クラスとしていますが、場合によっては5歳児でも2クラスということはあると思います。今後、国の基準でも3歳児は15：1にするとしておりますので、国の基

	<p>準も変わってくるのではないかと思います。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り保育（異年齢保育）について、公立保育園は来年4月から全園で異年齢保育を進めるということで、まだ、行っていない園の保護者に説明を行ってきました。今、4園で異年齢保育を行っていますが、異年齢保育の良さを実感しています。子どもの数が減っている中、兄弟、姉妹がいない子どもたちが縦割りで生活することで、いろいろなものを身に付け成長していきます。先ほど、子どもの数が増えると異年齢保育はどうなるのだろうかということがありましたが、統廃合でどのような運営になるかは分かりませんが、異年齢保育の良さは感じていますので、それを引き継いでいきたいという想いはあります。 ・方針案について、これが出てきたのは老朽化ということからであり、このままでは、地震等の災害が発生した時、子どもたちを守れないことから、方針は概ね妥当だと思います。岩倉の子どもを育てるといふ部分で幼稚園、認定こども園、公立保育園が連携をとって、やっていきたいと思っており、その中で民間の良さ、公立の良さを認め合い進めていければと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園の果たす役割は、地域の子育て支援の拠点、セーフティネットだと考えています。その意味では公立保育園でしか果たせない役割は重要であり、引き続きやっていくべきだと思います。老朽化していることで、地震が心配されます。 ・10年後、20年後の子どもたちがいったいどうなのかといったことなど、現時点では分からないことだらけでの「案」なので、世の中の流れや市の財政など、さまざまな問題をその都度、考えながら進めてほしいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はびっくりしましたが、話しを聞くにつれて、公立でやることはきちんと押さえていく、老朽化は改善していく、親御さんの希望も聞いて駐車場も設けるということでした。今の保育園は老朽化が進んでいて、修繕する箇所が多く、ままならない状況です。今回、第2期にスライドしていただきましたので、概ね妥当だと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね妥当だと思っています。 ・施設の老朽化、少子化による運営の厳しさが増える中で、国から建て替えの補助金は出ません。保育料を上げること、財源確保のため市民税を上げて守ることは厳しいものがあり、子どもたちの安全という観点からすれば、岩倉市としてはどうしようもないところまで来てしまっているのではと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> 不安を抱えている保護者の方もおられますので、丁寧に進めていただきたいと思います。また、せっかく統廃合するのであれば、保育的なプラスアルファをきちんと考え、保護者を交えて一緒になって考えるような進め方をしていただきたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 概ね妥当だと思います。 安心、安全をとるなら仕方ないと思いますので、進めていただければと思います。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 改築に伴う統廃合について、将来の人口減少は明らかで、その面での財政を考えたり、保育園以外の公共施設、道路、下水道なども含め、メンテナンスをしなければならないという財政負担も考えなければなりません。 建物については、地震がいつ起こるかということが予知できないので、子どもたちの安全を考えるなら、早く手を打たなければいけないと思います。 実際、一部の園を見せていただきましたが、駐車スペースが大変な状況です。このことについては子どもの声がうるさいことで新しく園を建てさせないとする風潮がありますので、近隣とのトラブルは避けなければいけません。今ある園を大事にしたいというみなさんの想いも分かりますが、今後のことを考えると統廃合はやむを得ない判断だと思います。 (資料2：13 ページ) 今後に向けての部分で「民間の活力を利用した場合の効果について検討する必要があります」と書かれています。(資料2：1 ページ) 方針策定にあたっての部分では、「懇話会において、方針の考え方をまとめることになりました」としています。懇話会の意見を踏まえて市が出されるというのであれば市の考えですが、懇話会として出すのであれば懇話会ではほとんど議論されていません。統廃合と民営化を一緒にしていることには異論があります。今まで公立であったところを民間に託すということについては、相当慎重にやらないといけないと思っています。支援が必要なお子さんを民間に入れることについて、理解が遅れているところも少なくありません。また、私立のこども園もあり、そこの競合もありますので、私立のみなさんのお考えも聴かないと、子どもの取り合い状態になりかねません。一番危惧されることは、新しく参入したところは採算で動くところもありますので、採算が合わなければ途中で撤退ということもあり得ます。(資料2：13 ページ) この最後の部分を市として出されるのであれば、改めて別の場で議論をされた上で出すのが筋ではないかと思っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合については、今まで議論してきたこともありますので賛成ですが、最後のくだりの部分については承服しかねます。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2：1ページ) 背景と目的の中の3段落目に「懇話会において、方針の考え方をまとめることになりました」とありますように、方針の考え方を懇話会で示していただき、方針の決定は市が行うという捉え方をしています。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2：13ページ)「今後に向けて」の内容は市としてのスタンスですか、懇話会としてのスタンスですか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後に向けて」は懇話会としての市に対する提案だと考えております。今回はこの部分は課題としていましたが、今回は今後に向けた提言に書き換えました。ご指摘の部分について懇話会として違うということであれば、少し書き方を変えます。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2：13ページ) 乳児が幼児に幼児が学童へと円滑に上がっていくことができるようにするには、「岩倉型の幼保連携一元化」の考え方で公立、私立が連携しないといけないという部分は納得できますが、「民間の活力を利用」の部分は懇話会で主に議論されてこなかったもので、ここでの結論として入れることはどうかと思います。 ・私たちは、市が判断されることについてではなく、適正配置について委託を受け議論してきたので、その使命は果たして来たつもりですが、それに付加するのはいかがなものでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この懇話会で公私連携型の議論をした覚えがありません。そんな中、利用した場合の効果についても検討する必要があるとすることを懇話会として出すことはどうかと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料1-2：1ページ) アンケートで「どちらともいえない」が多いのですが、その理由の一つとして、キーワードがあまり理解されていなかったということを知っています。このことについて、保護者の方が不安を抱いているということは事実なので、そのことだけは現場の園長として発言させていただきます。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・この部分は課題として4回目から出ていた文章で、公私連携型の保育制度を活用するということを今回いきなり挙げて、議論が進んでないということではありません。(資料2：13ページ) 懇話会の総意ということであれば、最後の下から5行分は削除していただいても結構です。 ・公共施設の再配置を考える時、手法と併せて考えます。例えば、PFIなどいろいろな手法で公共施設はやっていこうとしています。そうした民間の活力も活用していくということは、報告書には必要だと思っています。市としても、民営化はやりたくないのが本音の

	<p>ところ。他市では民営化が進んでいる中、岩倉市では公立を今まで守ってきたことにより、民営化は一つもありません。しかし、これから先、それができるかどうかは難しいところです。公立の施設建設では補助金は一切出ません。民間では出ます。公私連携型制度は新たにできた制度ですが、単に民営化するのではなく、公立と受託の民間が協定を結んで行政の関与を深めた形での連携であり、こういったものが一つの解決策になるのではないかとということで、ご説明させていただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> 副委員長のご意見で民営化になるとデメリットもかなり大きいとありましたが、株式会社等の参入を許せば、そういったこともあるかもしれません。岩倉市はこれまで、排除するために民営化をやったことなかつたこともあり、認定こども園の建設にあたっては、市内の実績ある学校法人のお力を借りてやってきたということで、市外から他の事業者を入れることはできるだけ排除してきました。今後もその方針に変わりはないと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 建設の際、私立には補助金がでるということでしたが、公立保育園に係る費用は国から補填されているはず。一般財源化ということで、何でも使えるお金を今でも貰っているはず。どちらにしても税金を使うことにはなりません。この件に関しては同意しかねます。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の運営については、国が2分の1、県が4分の1の負担となっています。建築に対しての補助は公立には出ません。一般財源化ということで、地方交付税の中で幼児教育に関する費用は算定されています。今後、無償化になった際、保育の国、県の負担はまだ示されていませんが、市の負担は増えていくと想定されます。先ほど、委員から10月から無償化という話がありましたが、その財源については全く示されていません。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 建物について、出るお金は具体的にどのようなになっているのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 国の安心こどもプランでは、工事費における市の負担は12分の1となります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 建物に出るお金だけを考えて、民営化というのはいかがなものでしょうか。子どものことでのソフト面も重要だと思いますので、賛成できません。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> 民営化の話になると堂々巡りになってしまうので、(資料2:13ページ)最後の5行を削除するというのであれば、そうしていただいても構いません。

<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2：13 ページ) 段落を全部削除する、もしくは「また」のところからを削除するという案もありますが。
<p>副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「また」以前の部分はそれ以前の段落とつながっています。 ・メリット、デメリット両方を出して全体的にどうかを判断するわけで、懇話会ではそれが中心的議題ではなかったことから、懇話会として出すのであれば、皆が一致できるものを出したほうが良いと思います。 ・市がそれを検討することを止めると言っているわけではありません。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2：13 ページ) 最後の部分「また」以降の3行を削除することではいかがでしょうか。 ・さて、私自身の意見を申し上げますと、この方針案については概ね妥当だと考えています。 ・私は他の市町でも再編に関わっています。かなり時間が掛かる事ですので、今のうちからしっかりと考えて準備して、将来、何もできないということだけは避けなければいけません。例えば、この建物が雨漏りし始めたといっても、すぐ、直すことはできません。予算がなければ1年後、2年後になるかもしれません。そういった事態を招く状況を次の世代に残してはいけないと思います。今回の計画も18年も掛ってしまうわけですが、大筋としてはこの方向で行かなければいけないと思います。しかし、将来の社会情勢を見通せないということもありますので、計画が硬直的に運用されるのは避けなければいけません。状況を見て必要な時には見直す必要があります。 ・(資料2：13 ページ)「また」以降を削除することについて、将来的には税金だけではやっていけない時代が来ると思っていますが、その際、民間の力を活用するといったオプションがないのは、まずいのではないかと思います。文の最後に「効果についても検討する」と書いてあります。必ず実行すると言っているのではなく、オプションとして持っておくということですので、その姿勢は必要だと思います。民間の活力には、PFIやPPPなどいろいろなものがありますので、それらを取り入れるということは、これからの時代必要なことだと思います。その中で、如何に公立保育園の良さを維持、向上させていくかが問われるのだと思います。 ・委員の皆様のご意見をうかがいました。欠席の委員のご意見もうかがいました。一部、反対の意見の方もいらっしゃいますが、大勢としてはこの方針案をよしとしていると理解しておりますので、懇話

	<p>会としてはこの方針案を結論としたいと考えております。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身、懇話会は審議会ではないので、あくまで意見を聞く場であって、意見を反映していただく場と理解していました。今、一定の方針が出ましたが、私がこれまで参加させていただいた中で、意見を反映していただいたと感じることは、ゼロではありませんが少ないと思います。中には、私が言ったことが議事録から省略されていたこともあり、充分反映されているのか疑問です。意見の反映をどの程度していただいたかを知りたいです。この案が社会情勢により見直される必要があり、その際には市民との対話が必要だと思います。 ・この案について、デメリットの記載が一切ありません。昨日、愛西市で6校の小中学校を1つの小中学校に統合するというニュースがありましたが、署名が集まり、見直すということでした。愛西市の適正配置方針案にはメリットとデメリットの両方の記載がありました。デメリットも明示した上で市民の理解を得る必要があると思います。 ・この方針案を妥当とする意見で施設の老朽化を取り上げている方がいましたが、老朽化を統廃合の理由にするのはおかしいと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合は総量を減らすのが基本ですが、老朽化解消だけをやっていては問題の先送りになります。それは避けるべきだと私自身は考えています。老朽化解消の際、将来維持できる総量にしなくてはなりません。それをしないと高負担の保育サービスを次の世代、その次の世代が負担しなければならなくなります。その状況は避けなければなりません。老朽化と統廃合はセットでやらないと、全体がうまく回っていかないということは、ご認識いただきたいと思います。 ・(資料2：13 ページ) 対話については、今後に向けてのところで、「関係者との対話と協議を重ねながら進めていく」と明記してありますので、具体的に動いていく時には、丁寧な議論を行っていくことを懇話会として申し入れたと理解しています。 ・方針案は羅針盤のようなものですので、大きな方向としてはこのように行くが、風の向きや潮の流れが変わった時、見直す必要が出た時は見直すということは折り込み済みです。事務局も含め全員が承知していることをご認識いただきたいと思います。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意見を聴くということはこの場で折に触れ言ってきました。私が意見を聞いたほうがよいのではないかとやったことでワークショップを開いてくださいました。また、説明会も開くなど市民の

	<p>意見を反映するという努力はしていただきました。また、今日の資料の中にありますアンケートなどを出したり、市のホームページに出すなど、市が誠意を持って努力していることは承知しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く建て替えしてほしいという意見もあり、全員が納得してからということだと何時になるか分かりませんので、期限を設けることも必要だと思います。市も誠意を見せてくれたので、懇話会として一定の結論を出すということにご理解をいただきたいと思います。
<p>3. その他</p>	
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・懇話会でいただきました公立保育園適正配置方針の考え方を最大限に活かし、上位計画である岩倉市公共施設再配置計画に反映させてまいります。公共施設再配置計画は 10 月と来年 1 月に市民説明会を行い、来年 2 月末までに計画の策定を行うべく、現在進めております。 ・小松委員長、鎌倉副委員長はじめ委員の皆様には、お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。保護者の皆様からも貴重なご意見をいただきました。公立保育園の適正配置だけでなく、現在の保育園の運営にも参考にさせていただきたいと思います。今まで以上に市民の皆様からご支持いただける岩倉の幼児教育、保育を皆様方と連携して提供していきたいと考えております。ありがとうございました。 ・以上をもちまして、第 6 回岩倉市公立保育園適正配置に係る懇話会を閉会させていただきます。